

2020 年 1 月 20 日

2019 年 12 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は一部学参関連の動きが見られたもののディスプレイ化の流れもあり、全体的には低調な動きで前年を下回った。

（前年比 87.7%）

巻取は郵政関連の仕事の先送りもあり大口物件受注もほとんど見られず、3 カ月連続前年を大幅に下回った。

（前年比 75.9%）

再生紙平判は前月に引き続き大口物件の受注があり、前年を大幅に上回った。

再生紙巻取は引き合いの減少傾向が続き、受注生産の影響で在庫状況も悪く前年を大幅に下回った。

（前年比 再生上質平判 129.0% 再生上質巻取 60.9% 再生上質計 96.1%）

（前年比 印刷用紙 A 85.4%）

<A2 コート>

平判は金融、生損保、官公庁、各種カタログ等で動きがあったものの、全体的な印刷案件数の減少と昨年の仮需の影響もあり前年を大幅に下回った。

巻取は生損保、不動産、教育関係等で動きがあったものの平判同様に全体的な印刷案件数の減少により前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 83.0% 巻取 76.0% 全体 81.4%）

<A3 コート>

学習塾、家電、量販店で動きがあったものの、増税後の消費の冷え込みによるチラシ類を中心とした印刷案件の頻度、数量の減少と継続的な紙離れによる影響もあり前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 90.7% 巻取 77.9% 全体 82.6%）

<ノーカーボン紙>

生損保、官庁関連の動きが一部見られ巻取は前年を上回ったが、平判は新規案件や特需も見られず、一般の動きも弱く前年を大きく下回った。

（前年比 平判 82.3% 巻取 101.7%）

<上質フォーム>

金融、生損保関連の動きも弱く年末年始の需要も見られず、前年を大きく下回った。

（前年比 85.4%）

<包装用紙>

特殊両更は株式関係、金融保険関係に一部動きがあったものの、その他の案件での動きが低調で前年を大きく下回った。

(前年比 73.5%)

軽包装は製本会社向けの雑包装用途や小袋の動きがあったものの、全体を押し上げるには至らず前年を下回った。

(前年比 90.1%)

片艶晒は季節商品向け手提用途や金融向け封筒用途での動きはあったが、全体を押し上げるには至らず前年を下回った。

(前年比 95.3%)

両更晒は大手小売業チェーン店向け封筒、電信電話会社向け封筒で一部動きがあったものの全体的には低調で前年を下回った。

(前年比 95.8%)

純白ロールはギフトの包装用途での動きはあったものの、引続き省包装化、軟包装化の影響もあり前年を下回った。

(前年比 88.6%)

各品種軒並み需要低迷が続き包装紙合計で前年を下回った。

(前年比 89.4%)

<板紙>

年末年始の需要で日用雑貨等のパッケージは堅調であり特板関連の POP 等の動きもあった。

医薬、化粧品、食品関係なども堅調に推移しており全体的に前年を上回った。

(前年比 102.9%)